

みやわし

宮里老人クラブ新聞

第6号

会長：宮城武松
題字：喜屋武磯江
庶務：新屋千代子
編集：山下博實

新年に寄せて



宮里老人クラブみやわし会
会長 宮城武松

去年はコロナ禍の中、当たり前だった日常が失われ、引きこもりの日が多かったようです。私たち宮里老人クラブみやわし会もいろいろな行事を中止とならざるをえませんでした。

今年もコロナ禍が続き油断を許しません。今年もは丑年で、牛歩の如く遅くても、一歩一歩を踏み締めて着実に前進し、充実した日々を送りたいと思います。

そこで、去年のように健康チエックリストをつくり、感染対策をしっかりと行い、三密を避け、友愛訪問や公園の草刈り清掃、ゲートボール等を楽しく実施したいと思います。

会員のみなさんのご協力を得て、着々と活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



手作り絵がみ 島袋政子さん

友愛訪問 さびたん！



手作り年賀状 喜屋武磯江さん



香村定男さんスエ子さんご夫妻を訪問した友愛メンバー

二〇二〇年の暮れ一二月四日〜一八日の間に二〇人の友愛メンバーで、七五人のみなさんを訪問してきました。

コロナ禍中ですので長話は遠慮してあいさつ程度にとどめ

ましたが、皆さんコロナもなんのその、お元氣でしたのでほつとしました。

友愛訪問は、老人クラブ会員にかぎらず、八五歳以上の人暮らしの方やご夫婦だけでお住いのお

明けましておめでと〜ございませ
みやわし会会員の皆さん、
若若くとうなみそーちやがやーたい
♪肝ぬくさくさ さびしさんやな肝しわ肝うち忘してい
心ん美らくないみそちー健康でーいち 笑え福
♪

笑い福の節の歌のように二〇二一年丑年も笑って楽しく過ごしましょう！



宅を訪問して、友好を深めるための活動です。

高齢化社会と言われる今日、私たち高齢者同士、支え合って生き生きと元氣潑刺に行動できるための友愛活動です。

訪問される人は、「私のことを思ってくれる人がいて嬉しい頑張るぞ」と喜び、訪問する人は、「私はまだボランティアをする元氣があるんだ、自分はまだまだ出来る」という喜び。この両者の喜びが友愛訪問の目的なのです。

あなたも一緒に友愛活動をしませんか。

地域福祉委員

新屋千代子



- ※ 九十歳 人口減少 なんのその
- ※ 曾孫から 年玉もらい 目玉めれ
- ※ 膳囲み 孫の一言 初笑い

まじゅうのひと笑い (ネットより)

思い出いば



子供のころの思い出：写真
投稿募集中

兄と弁当

喜屋武磯江

本部の福木の里備瀬で、男二人女五人の五人目に私は生まれました。私が小学校三年の時、十一歳違いの兄の学業のため父に連れられコザの街に移り住む事になった。当時は炊飯器もなくかまどで薪を燃やして炊事をしていました。

兄から「飯の炊き方を教わった。」「ご飯が炊けたかの目やすは、カニの穴がポツポツと開くから、その時は火を消す」と、教えてくれたよ。」と、初めてのご飯炊きです。二合位を羽釜に入れ炊き始めました。けれどなかなかカニの穴らしきものが、開かないので、ずーっと火を点けつぱなし、そこへ畑から帰って来た父が「何か焦げ臭いよー。」と、火を消してくれました。ご飯は上まで焦がれてたべられなかつた。それ以降は、父と兄が炊いてくれた。

兄が勤めに行くようになってからある日、頼まれたが、おかずの作り方が分からず戸惑った。ふと、故郷で母が油味噌をのせ食したことを思い出した。そこで、白いご飯の上にお味噌(生味噌)だけに乗せ、ハンカチで丁寧に包み兄に持たせた。兄は笑顔で職場へと急いだ。兄は、弁当を開きビックリ！「すぐ弁当を閉め、腹痛だと言って、食わずにいたそうです。」

今でも兄は、私の大事な相談相手です。本当にありがたいう存在です。いつまでもお元気で、私たち姉妹にいろいろアドバイスしてくださいね。

今でも兄は、私の大事な相談相手です。本当にありがたいう存在です。いつまでもお元気で、私たち姉妹にいろいろアドバイスしてくださいね。

今でも兄は、私の大事な相談相手です。本当にありがたいう存在です。いつまでもお元気で、私たち姉妹にいろいろアドバイスしてくださいね。

小学一年の思い出

宮城武松

数え七歳の四月に済井出(すむいで)幼稚園児になり、若い玉城キヨ先生に受け持たれました。幼稚園では童謡や遊戯を教わり、みんなで楽しみました。

ところが五月中旬、「武松は早生まれだから1年生に入学しなさい」との通知が届きました。片道約二、五キロの屋我地小学校へ入学しました。同じ早生まれの村長の息子カー坊達と赤ミチャ(土)の山道を通学し、雨降りには滑って転び洋服を汚し、泣きながら学校へと急ぎました。

5月中旬から学習を受けるので、みんなについていくのが精いっぱいでした。担任は、校長夫人の新里フユ先生でした。生徒には教科書がないので、授業では先生が教科書らしき本を読み、私たちはそれを聴き覚えようと一生懸命でした。翌日、最初の国語のテストがあり三五点でした。今でもはつきり覚えていますが、怖い先生でしたが、私たちからの評判はよい先生でした。校舎の裏に豚を飼育していたので、「弁当は皮付きの芋を持って来るように」と言われました。昼食

待ちわびて一緒に出かけました。最初に区長さんの祝辞のあいさつの後に、一人ずつ自己紹介となり続いて歌の出番となり、十八番の歌でもとすすめられました。流行歌など知らず、思い出した歌が「背くらべ」の歌でした。

後、全生徒の芋の皮を集めて豚の飼料にしていました。



成人式の思い出

松田竹子



まだお正月気分もさめないある日、私の故郷の山原から突然、成人式の連絡がありました。その頃はすでにコザに出て来て働いていました。

今でも成人式の話など耳にしたこともなく、もはや成人式の仲間入りの歳になったのかと、さっそくお友達と誘い合い、いろいろな想像をしながらこの日を

いまだにこの曲が流れると、成人式のあのころのことが思い出されます。もう六十年の月日が流れて、まるで夢のようです。これからも残された人生を前向きに楽しい日々を送りたいと思う今日この頃です。

? 私はだれでしょう?



写真は若いころの上江洲安輝さんです